

## 追悼・顕彰の事跡年譜

### ▼大正14年（1925）

6月・「曲水」(10-7)。追悼句、水巴2句、他。葬儀参列の吟社代表加藤余石の水巴に宛てた報告の書信を掲載。

7月・放送。17日(金)午後2時40分「童謡いろいろ」は、番組表に作曲・伴奏中山晋平とあり、前記のように「雀たずねて」の初放送日がこの日と合致するし、次の、8月の日付不明の亮之助書信の内容をあわせ考えると、厚追悼の色が濃い放送内容と考えられ、かつ厚童謡の初放送でもあった。

8月・日付不明、鈴木三千代宛、亮之助の手紙。(事跡内容に収録・149頁)

9月・「曲水」(10-9)は、長頸子追悼にあてられ、「思ひ出の兄」海野烏喙子、「空蟬」南拾参生、「長頸子君と私」川越苔雨の各追悼文の他、「長頸子君の句」として水巴編の44句を掲載。又水巴は「麹町より」欄に、早逝を惜しむ一文を書いている。(なお、烏喙子「思ひ出の兄」の中の俳句は長頸子の吟詠である。)

10月・放送。6日(火)午後6時40分、童謡の時間。曲目の中に「秋の夜」「港の燈」「山は夕焼」の3作が見える。いずれも小田島樹人作曲のもので、とくに「港の燈」は「子供達の歌」第4集の表題にも予定されていたながら未刊行に終わったもので、譜面も未見である。番組表に記載の出演者は、演唱小林義雄、伴奏鈴木次男とある。

11月・放送。18日午後7時25分、童謡の曲目の中に「月夜の畑」があり、出演はニコピン会。

「曲水」(10-11)。水巴「麹町より」(付録に所収)は、長頸子を偲ぶ一文で、ラジオ放送で厚作詞の童謡3つを聴いて書かれたものだが、文には「9月18日の夜の番組」となっているが、当時の放送番組表にそれらしいものが見当らない。放送月日については水巴の記憶違いかとも思われるが、現存の当時の放送番組表の記載は不備のものが多いためなんともいえず、付録所収の文に従うか。

### ▼大正15年（1926）

この年文部省唱歌に「せいくらべ」他が採用される？

6月・放送。18日(金)午後4時「子供の音楽いろいろ」の曲目の中に「おもちゃのマーチ」がある。番組表に唱い手大勢、伊藤武とあり、「唱い手大勢」の所に吉田照他4名と書入れがある。

9月・放送。26日(日)午後6時「童謡」の曲目に「赤い櫛」が見られる。独唱は清川弥生。

10月・放送。12日(火)午後6時子供の時間「童謡」の曲目に「後の鬼ヶ島」が組まれている。出演はみどり会、伴奏瀧井梯介。

(以上ラジオ放送初期の番組表所載のものをNHK放送史編集室の好意で、大正15年末まで書き抜き、昭和2年以降は割愛)